

I 実践

1 研究主題

思いやりや助け合いの心を育てる人権教育のあり方

(1) 主題設定の理由

本校では、教育目標として「自ら学び 心豊かで たくましい子どもの育成」を掲げている。その実現のために、めざす児童像として「自ら考える子」「相手を思いやる子」「健康で根気強い子」を挙げているが、その中でも「相手を思いやる子」が人権教育と直接かかわりのある目標である。児童の多くは明るく元気で素直であるが、友達と上手く関われなかったり、自己中心的で相手を思いやる配慮に欠ける言動からトラブルになってしまったりすることが少なくない。そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が人権尊重の自覚をもち、互いに助け合ったり、相手を思いやったりする心の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 道徳教育の充実
- イ 豊かな体験活動の展開
- ウ 人権意識を高めるための職員研修の実施

2 実践内容

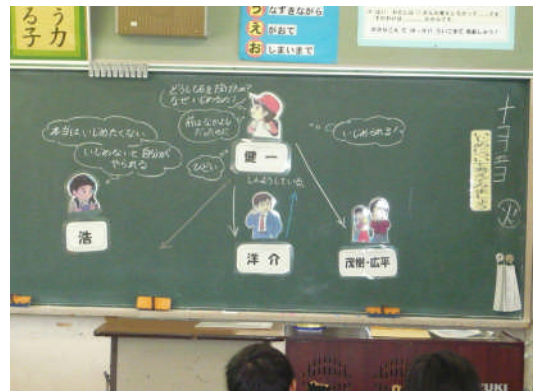
(1) 道徳教育の充実

ア いじめをなくそう人権教室（第3学年）

本年度は、人権擁護委員の方々が来校して、第3学年の児童を対象に人権教室を開き、指導して下さる機会をもつことができた。「いじめはゼツタイわるい」というアニメビデオを視聴し、「いじめ」という行為を例に、登場人物のそれぞれの気持ちを考えることを通して他人への思いやりやいたわりの心といった人権尊重意識を養うことを目的としてすばらしい授業を展開していただいた。

ストーリー

小学校3年生の健一は、近頃学校に行くことがつらい。友だち3人にいじめられているのだ。しかも、その中には大の仲良しだった浩まで含まれている。あるとき、学校の帰り道に出会った中学生（洋介）に励まされ、勇気を出して先生に打ち明ける。その結果、健一へのいじめはなくなった。ところが数日後、今度は浩がいじめの標的に……



(授業で使用したワークシートから)

★ もしもこれから、自分が同じようなことになったらどうすると思いますか？

もし、ぼくがいじめられたら、まよわず先生やお母さん、お父さんに言う。いじめられている人を見たら助ける。いじめはぜったい悪い。

いじめられたら、かならず大人にそうだんしてかいけつしてもらおう。もし、またくりかえされたら、いじめている人に「いやだ」ってことを伝える。

イ 人権に関するビデオを活用した学習（全学年）

- 1 2月の人権週間に合わせ、人権に関するビデオを視聴し学習する機会をもった。
 - 1・2年・・・「勇気あるホタルととべないホタル」
 - 3・4年・・・「名前…それは燃えるいのち」
 - 5・6年・・・「人権ってなんだろう」〈小学生の人権学習シリーズ〉

(2) 豊かな体験活動の展開

ア 総合的な時間における体験学習（第4学年）

(ア) 福祉体験

「田尻の思いやりをさがそう」の学習の一環として、高齢者や障害のある人々の大変さや苦労などを実感し、どのような助けが必要なのかを考えるために、地域のゲストティチャーの協力を得て、シニア疑似・車いす・アイマスク・手話などをグループに分かれて体験し、学び合いをした。



車いすに乗っていると、
少しの段差でもこわいと感じた。
乗っている人の気持ちを考えて
声をかけてあげたい。

(授業後の感想より)

(イ) お年寄りとの交流

地域の介護老人保健施設（田尻が丘ヘルシーケア）を訪問し、歌やリコーダーなどを発表したり、お年寄りの方々と一緒にお話をしたりして交流を図った。また、手作りカレンダーや励ましの手紙を作成して届けた。

イ 異学年集団との交流（全学年）

1・6年，2・5年，3・4年で兄弟学級を作り，主に水曜日の昼休み（青空タイム）に一緒に遊ぶことで交流を深めている。また，そのグループ内でペアを決め，体力テストやなわとび大会（3学期実施予定）などで上の学年が下の学年の世話をしている。

(3) 教職員に対する校内研修会【平成22年8月4日（水）実施】

ア 「気づいてますか あなたのひとこと」による言語環境の再認識

茨城県教育研究会人権教育部発行の資料「気づいてますか あなたのひとこと～言語環境から考える人権教育」を使用して，学校における配慮を要する言動を提示し，どこが問題なのか，どんな言葉かけをしたらよいかについて演習形式で学習する機会をもった。

イ 人権啓発ビデオ「人権ってなんだろう」の視聴

ウ 人権部員によるビデオ活用授業の事前研修（内容検討）

3 成果

- ・人権擁護委員の先生方が行ってくださった人権教室では，いじめは絶対にいけないという人権問題を自らの課題としてとらえ，主体的に取り組んでいこうとする態度が見られた。
- ・発達段階における人権ビデオを活用しての学習は，「自分を大切に・みんなも大切に」をテーマに，全校児童が日常生活における人権問題について考えるよい機会となった。高学年のあるクラスでは，今回のビデオ視聴をきっかけに男子グループの友人関係について指導改善することができたという報告があった。
- ・総合的な学習の時間では，福祉体験やお年寄りとの交流を通し，高齢者や体の不自由な方の生活を学んだり，理解を深めたりすることができた。また，今後どのように接していくことが大切なのか，自分たちにできることは何かを学ぶよい機会となり，実践意欲の高まりがうかがえた。
- ・異学年交流では，高学年としての自覚をもち，低学年の児童をやさしく面倒を見る姿が見られた。また，低学年児童は，高学年児童に対して親しみや感謝の気持ちをもつことができた。様々な体験活動を通し，相手を思いやり，助け合おうとする心が育ってきている。
- ・職員研修は，一人一人を大切にする人権教育の基本理念の意識付けの高揚に役立てることができた。

II 今後の課題

今後も，学校教育活動全体を通して人権教育を推進し，自己や他者を大切にする人権意識や人権感覚を育て，児童一人一人の意識の高揚や実践力の強化を図っていききたい。また，教職員自らが人権に関する理解と認識をさらに高め，指導力を向上させるための研修を充実させていきたい。

III 人権コーナー設置の様子



※ 全校児童の憩いの場である‘どしっこ広場’の一角に，人権コーナーを設置し，人権メッセージやビデオを活用した道徳の授業の感想，人権書道作品などを計画的に掲示している。